

CLOSE
UP

温泉ライターが巡る 新幹線駅湯けむり紀行

文・写真：泉 よしか

いずみ・よしか 温泉ソムリエマスター、温泉観光実践士、サウナ・スパ健康アドバイザー、温泉ビューティー&ダイエットソムリエ。有名温泉から穴場の温泉まで、行ってみたい温泉やオトクな旅行情報を、ニフティ温泉、Yahoo!ニュースエキスパートなど複数の媒体で執筆している。

武雄温泉「元湯」
「蓬莱湯」の入口

YouTube
動画は
こちらから！



皆さん、新幹線の駅名に温泉の名前が付くところがいくつあるかご存じですか？北から山形新幹線の「かみのやま温泉駅」、北陸新幹線の「黒部宇奈月温泉駅」「加賀温泉駅」「芦原温泉駅」、西九州新幹線の「武雄温泉駅」「嬉野温泉駅」の6つ。ということは、新幹線でサクッとこれらの温泉に行くことができるんですね！考えただけでワクワクしちゃいます。

そのうち「かみのやま温泉」を除く5つの温泉の名が付く駅はなんと鉄道・運輸機構（JRTT）が建設しています。今回はその5つの温泉駅で下車して、2泊3日で6つの温泉地を巡ってきました。それぞれの駅舎、駅周辺、温泉街、共同浴場などをたっぷり楽しんできたのでご紹介します。

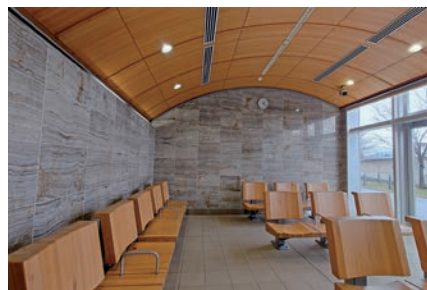
黒部宇奈月温泉駅から山岳リゾートの宇奈月温泉へ

ビルでぎっしりの東京駅を北陸新幹線で出発して、約2時間20分。車窓の景色は流れゆく立山連峰のパノラマに変わりました。

到着した黒部宇奈月温泉駅（富山県）のホームの印象はシルバー。雪を頂いた立山の峰を思わせるピュアなカラーです。窓からの景色も絶景。山は見



黒部宇奈月温泉駅の外観



待合室には地元産の大理石を使用



踊り場のガラスには蛭谷（びるだん）和紙が挟まれている

えるだろうなと思っていたのですが、なんと海まで見えるとはびっくり！ちなみに北陸新幹線の金沢・敦賀間は2024年3月に開業しましたが、長野・金沢間は2015年3月に開業しており、今年10周年を迎えました。

駅コンコースの下がり壁の木材や、待合室壁の大理石は地元産の建材を使用。階段踊り場のガラスは蛭谷和紙を挟んで和風の雰囲気です。

ここからは富山地方鉄道に乗り換えて約25分、宇奈月温泉駅に到着。駅の階段を降りると、なんと湯けむりの上がる温泉の噴水が！

宇奈月温泉は、約7km離れた黒雉温泉からお湯を引く温泉地。宿泊施設は10軒ほどで、共同浴場である総湯「湯めどころ宇奈月」や足湯があります。「総湯」は北陸地方で共同浴場という意味合いで使われています。実際に歩いてみるとわかりますが、温泉街と山々が近く、まさに山岳リゾートといった雰囲気。平野部とは空气の透明度が違うみたい。

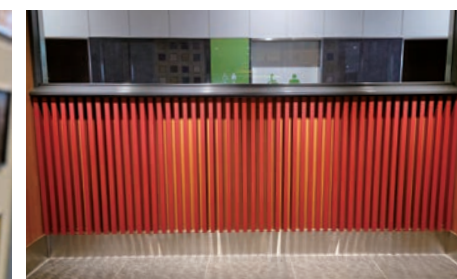
早速、総湯「湯めどころ宇奈月」で温泉に入浴。弱アルカリ性の単純泉は無色透明、くせのないサラリとしたお湯で肌をしっとり包みます。



加賀温泉駅の外観



待合室入口には九谷焼のデザインを施したタイルが展示されている



駅の至る所で使用されているべんがら格子

片山津温泉の共同浴場「加賀片山津温泉総湯」は全面ガラス張り。まるで湖畔のアート作品のよう



①富山地方鉄道宇奈月温泉駅にある温泉街のシンボル、温泉噴水 ②総湯「湯めどころ宇奈月」の浴室 ③宇奈月駅トロッコ広場には凸型電気機関車が展示されている ④宇奈月駅を出発したトロッコ電車が最初に渡る真紅の鉄橋、新山彦橋（写真提供：黒部峡谷鉄道株式会社） ⑤宇奈月温泉の街灯にはトロッコ電車があしらわれている



⑤宇奈月温泉の街灯にはトロッコ電車があしらわれている

白を基調としたタイル張りの浴室は明るく洒落た印象でした。

宇奈月温泉からは、黒部峡谷鉄道のトロッコ電車で樺平駅まで行くことができます（2025年は能登半島地震の影響で猫又駅折り返し運転。復旧時期未定）。運行期間は例年4月中旬から11月末までですが、冬にもイベントとして雪景色の中を新山彦橋まで乗車できる「冬の黒部峡谷プレミアムツアー」が開催され

ているそうです。

加賀温泉駅から 湖畔の片山津温泉へ

再び黒部宇奈月温泉駅まで戻り、北陸新幹線で今度は加賀温泉駅（石川県）へ。駅名は「加賀温泉」ですが、実は加賀温泉という温泉地はないのはご存じでした？一般的には加賀市の片山津温泉、山代温泉、山中温泉に小松市の栗津温泉を足した4



片山津温泉総湯「渦の湯」(写真提供：片山津温泉総湯)



柴山洞に浮かぶように建てられた浮御堂



片山津温泉配湯所。ここから各旅館へ温泉を配湯している

湯を加賀温泉郷と呼ぶことが多く、加賀温泉駅はそれら温泉地への玄関口となっています。

私が加賀温泉駅に到着した時はあいにくの雨でした。もう豪雨といってよいほど。さすがは年間を通して雨の多い場所。それが不思議と駅の外に出たとたんに雨は上がり、青空が顔を出したではありませんか。びっくりです。さて加賀温泉駅の駅舎は落ち着いたカラーの朱色の印象。外壁、待合室の壁、ホームの吊り子にべんがら格子を、待合室の屋根の飾りに赤瓦を用いていることで、和の趣と華やかさ、そして夕暮れ時の温泉街のような情緒まで感じられるような気がします。

また取材時の 2024 年 12 月は加賀温泉駅の高架下に飲食店、土産物屋などが入る商業施設「ゆのまち加

賀」がオープンしたばかり。駅直結で便利。新幹線のちょっとした待ち時間にも使えそうです。

初めに片山津温泉へ向かいまして。ここは湖畔に位置する風光明媚な温泉地。弁財天と龍神を祀る湖畔の浮御堂（うきうき弁天）、寝殿造りの片山津温泉配湯所、砂走公園の足の湯「えんがわ」などのスポットは気軽に歩いて回れる距離感です。

共同浴場である「加賀片山津温泉総湯」は、なんと全面ガラス張り！「美術館建築の名手」と呼ばれた建築家、谷口吉生の作品で、まるで湖畔のアート作品のよう。わざわざこの建物を見学に来るお客さんも多いそうですよ。お風呂は奇数日偶数日で男女が入れ替わります。お湯は高張性（成分が濃い）の塩化物泉で入ればポカポカです。

さらに夕景も絵になる山代温泉へ

次は加賀温泉郷のもう 1 つの温泉地、山代温泉を訪ねてみましょう。こちらは 1,300 年以上の歴史を持ち、神話に登場する八咫鳥が羽を癒したとされています。温泉街の中心には湯の曲輪があり、ランドマークである古総湯を取り囲むように、総湯、飲食店や土産物屋を含む交流施設「はづちを楽堂」などが立ち並びます。特に灯りがとまり始める夕刻は、ライトアップされた古総湯が暮れていく空に映えて、旅情に心が揺き立てられるよう。まさに浴衣で歩きたい風情あるスポットです。

ところで山代温泉には、「古総湯」、「総湯」と共同浴場が 2 軒もあります。「古総湯」は明治時代の総湯を復元

※ 2022 年 11 月 9 日撮影



芦原温泉駅の外観



待合室のベンチは足湯をイメージしたデザイン

した建物で、シャワーもカランもなし。掛け湯をして入浴そのものを楽しむ昔ながらの浴場です。一方「総湯」のほうはシャワーがあり、観光客だけでなく、地元の方も利用しています。共通の入浴券もあるので、両方の違いを楽しむのも山代温泉の醍醐味です。泉質はどちらもナトリウム・カルシウム-硫酸塩・塩化物泉で、保湿・保温に優れています。

芦原温泉駅から足湯ならぬ芦湯のあるあわら温泉へ

加賀温泉駅から芦原温泉駅（福井県）までは北陸新幹線でわずか一駅。とはいえ県境を越えて石川県から福井県に入るので、隣の駅といっても駅舎の雰囲気も異なり、華やかな朱色の印象が強かった加賀温泉駅に対して、こちらはシック。クールな男性の和装のようなかっこよさがあります。コンコースが折り上げ天井になっているのも特徴で、ホーム安全柵に県内の観光名所や特産物の写真を使用したり、お手洗い前スクリーンのガラスに越前和紙を挟むなど、外観のシンプルさに対して駅舎内は意外とカラフル。また福井県産木材を使った待合室のベンチは足湯をイメージしたデザインで、温泉駅らしい楽しさも。

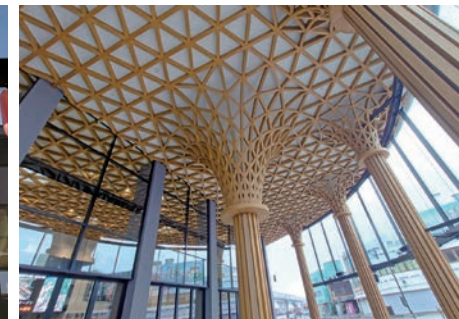
ところで福井県といえば恐竜！駅に隣接して観光案内所や「ふくいミゅ〜ジウム」を備えた西口賑わい



2 種類の泉質の異なる源泉を使用し、源泉かけ流しで、5 つの浴槽で楽しむことができる「芦湯」



えちぜん鉄道「あわら湯のまち駅」のロータリーの前にある、あわら温泉屋台村「湯けむり横丁」



雨天利用が可能な屋外の屋根付き「アフレア広場」

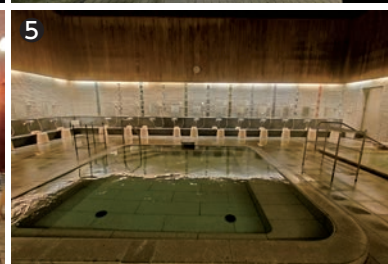
施設「アフレア」があり、駅からそこに至る通路に恐竜の足跡がついていたりします。家族旅行で来てもしっかり楽しめそうですね！

駅からは路線バスまたはタクシーに乗り 15 分ほどであわら温泉街に到着。温泉らしい雰囲気味わいたければ「あわら湯のまち広場」に行くのが良いでしょう。ここには足湯ならぬ「芦湯」や「伝統芸能館」、屋台村「湯けむり横丁」などがあります。「芦

湯」にはかけ流しの 5 種類の足湯があり、中でもあわら温泉のルーツともいえる舟の形をした足湯は必見。あわら温泉は明治時代に井戸から湧いた温泉で、その当時は田の用水路で使う端舟を湯船にして大人気だったそうですよ。

武雄温泉駅から竜宮城のような楼門の武雄温泉へ

北陸の芦原温泉駅から九州の武雄



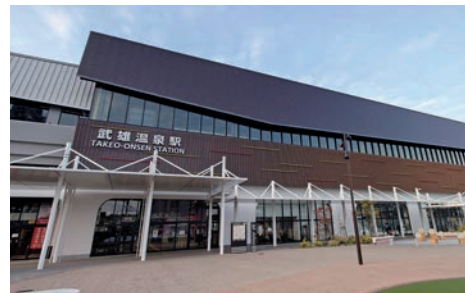
①昔ながらの温泉情緒が現在も色濃く残る山代温泉の街並み ②ライトアップされた古総湯の外観 ③古総湯では 1 階の浴室の床や壁の九谷焼のタイル、2 階の休憩所も明治時代のまま復元されている ④総湯の入口 ⑤総湯の浴室



武雄温泉のシンボル、ライトアップされた国指定重要文化財の「楼門」



武雄温泉駅コンコース格天井には楼門と同じく4千支があしらわれている



武雄温泉駅の外観

温泉駅（佐賀県）までは長旅です。敦賀・京都で乗り換えて、東海道・山陽新幹線「のぞみ」で博多まで。車窓の景色が飛ぶように過ぎていきます。博多駅からは「リレーかもめ」に乗り換えて武雄温泉駅へ。ここでいったん下車しましたが、武雄温泉駅では在来線と西九州新幹線が同じホームで対面乗り換えできるので便利です。

武雄温泉駅の最大の特徴は、やはり武雄温泉のシンボルである楼門を模したデザイン。まるで竜宮城のような楼門の白いゲートの形がそのまま駅の入口に。さらにコンコースの天井にも遊び心があるのです。実は楼門の2階の天井には干支の子・卯・午・酉の4つの彫絵があり、それと同じ図柄が武雄温泉駅のコンコース格天



元湯の浴室（写真提供：武雄温泉株）

井にも隠されているのです。格天井を見上げて1つひとつ探すのはなかなか難儀ですが、床に目印の立看板が設置されているので、それに気づけばけっこう簡単に見つかりますよ。宝探しのようでワクワクします。

さて、武雄温泉駅は西九州新幹線が開業する前から在来線の駅がありました。また武雄市役所が近いので、元々駅前には栄えています。ここから武雄温泉の中心部までは、バスやタクシーでもすぐですが、歩いても行くことができます。今回は徒歩で行ってみました。

国の重要文化財である楼門を潜った先に、「元湯」「蓬莱湯」「鷲乃湯」などの大衆浴場と、「殿様の湯」「家老の湯」などの貸切湯がある武雄温泉。今回は1876（明治9）年建築の「元湯」とシンプルな浴室の「蓬莱湯」の2つに入ってみました。どちらも源泉は共通で、とろとろとしたとろみを感じる弱アルカリ性の単純泉。「元湯」はあつ湯とぬる湯の浴槽に分かれていて、「蓬莱湯」

はその中間ぐらいの熱さの浴槽が1つ、地元の方は温度や深さの好みで使い分けることが多いそうです。

そうそう、夜には朱塗りの楼門がライトアップされて、これぞ武雄温泉という景色が見られますが、一方ライトアップされた夜の武雄温泉駅も華やかで印象的でした。

武雄温泉駅から美肌の湯の嬉野温泉へ

いよいよ最後の温泉駅です。西九州新幹線で武雄温泉駅から一駅。新幹線開業で初めて駅のできた嬉野温泉駅（佐賀県）へGO！駅舎で驚いたのは、外壁の縦格子。いかにも温泉街か町家の路地のように素敵だと思ったら、これがなんと焼き物でできているのです。全てが同じ色ではなく、よく見ると1つひとつ色合いが違います。またホームドアが緑色をしているのも印象的。そういえば嬉野は温泉だけじゃなくて焼き物やお茶の産地でもあるんですね。

駅前には「道の駅うれしの まるく」という観光交流施設があり、情報収集やお土産探しにも役に立ちます。

温泉街まではバスでアクセス。そして公衆浴場である「シーボルトの湯」へ。ここは大正時代に建てられた洋館風ゴシック建築を再現していて、ロマンティックな外観もさながら、館内の白とミントグリーンの配色がとてもお洒落なんです。浴室



嬉野温泉駅の外観



大正ロマン風ゴシック建築物は木造2階建ての「公衆浴場 シーボルトの湯」（右）とそのエントランスホール（上）

も洋風で、温泉はとろとろの美肌湯。嬉野温泉の泉質はナトリウム-炭酸水素塩・塩化物泉で、実は日本三大美肌の湯にも数えられている実力派です。湯上り肌はつるつる。

温泉街には他にも、珍しい足蒸し湯が無料で楽しめる「湯宿広場」や、美肌の願いを叶える白磁の「なまず様」を祀る豊玉姫神社など見どころがいっぱいです。

終点長崎駅、そして新幹線の温泉駅巡りの旅のまとめ

嬉野温泉駅から3駅で終点の長崎駅に到着します。東京を出発して、北陸から九州まで巡る長い旅もそろそろ終わりです。賑わう長崎駅はどこか



シーボルトの湯の浴室



「湯宿広場」では足蒸し湯が無料で楽しめる



白磁の「なまず様」を祀った豊玉姫神社



国指定重要文化財の「武雄温泉新館」



「元湯」「蓬莱湯」にはお湯の温度が表示されている